

平成 1 0 年度試験研究成果

区分	指導	題名	「かけはし」の腹白粒軽減対策		
<p>[要約] 水稻品種「かけはし」は腹白粒の発生がみられ、品質低下の1要因となっていたが、腹白粒はm^2籾数32～34(千粒)の確保・適期収穫・落水時期の適正化により軽減することが可能である。</p>					
キーワード	かけはし	腹白	品質向上	県北農業研究所 やませ利用研究室	

1. 背景とねらい

水稻品種「かけはし」は、地域的に「腹白」を格付け理由とする落等がみられ、品質向上のため、腹白粒の発生軽減対策が求められていた。平成6年からの試験結果及び平成10年度に新たに実施した試験結果から参考となりうる知見が得られた。

2. 技術の内容

- (1) m^2 籾数32千粒以上を確保することにより、腹白粒率を10%以内にする事が可能である。また、 m^2 籾数32千粒以上を安定的に確保するため、栽植密度は22.2株/ m^2 以上を確保する(第1～4図)。
- (2) 腹白粒は出穂後日数(積算平均気温)が経過するほど発生が多くなるので、適期に収穫(積算平均気温950～1050)を行う(第5図)。
- (3) 出穂後30日より前の落水では、腹白粒の発生が多発する可能性が高いので、出穂30日より前の落水は行わない(第6図)。

3. 指導上の留意事項

- (1) m^2 籾数の上限は、青未熟粒による落等回避のため生育診断基準値(30～34千粒)の上限値とする。また、施肥量は地帯別施肥基準を遵守する。
- (2) 腹白粒の発生には登熟期間の気象要因及び乾燥方法も大きく関係していると考えられるが、これらについては未検討である。

4. 技術の適応地帯

県中北部の「かけはし」作付け地帯

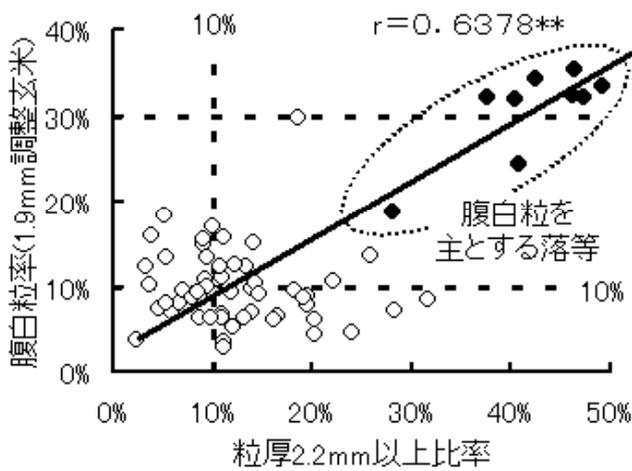
5. 当該事項にかかる試験研究事項

[水田利用2]-3-(4)-ア-(イ)-a「かけはし」の栽培法

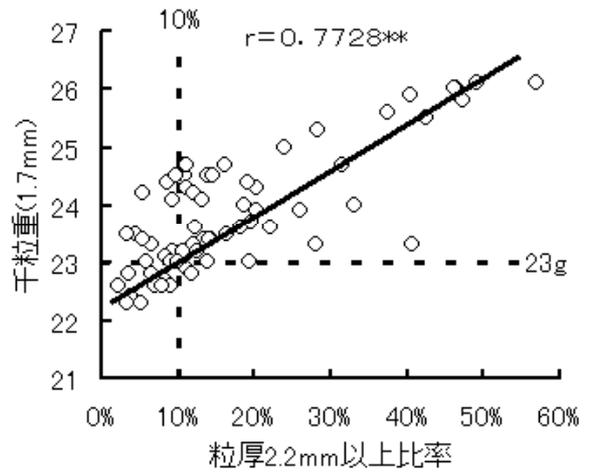
6. 参考文献・資料

- 1) 平成6年度指導上の参考事項 水稻品種「かけはし」の生育・栄養診断基準と栽培法
- 2) 平成8年度指導上の参考事項 平成8年産「かけはし」の品質の特徴と品質向上対策
- 3) 平成6～8年 岩手県立農業試験場県北分場試験成績概要書
- 4) 平成9～10年 岩手県農業研究センター県北農業研究所試験成績書(未定稿)
- 5) 江幡守衛・田代亨 1973.腹白粒に関する研究 第1報 日作紀42(3):370-376
- 6) 田代亨・江幡守衛 1974.腹白粒に関する研究 第2報 日作紀43(1):105-110
- 7) . 1975.腹白粒に関する研究 第3報 日作紀44(1):86-92
- 8) . 1975.腹白粒に関する研究 第4報 日作紀44(2):205-214
- 9) . 1976.腹白粒に関する研究 第5報 日作紀45(4):616-623

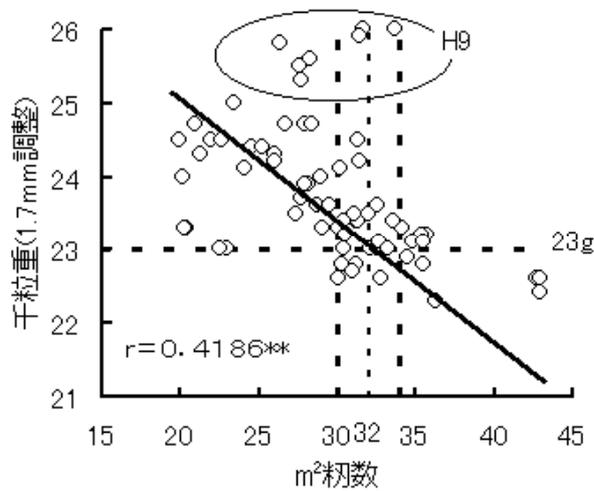
7. 試験成績の概要 (具体的データ)



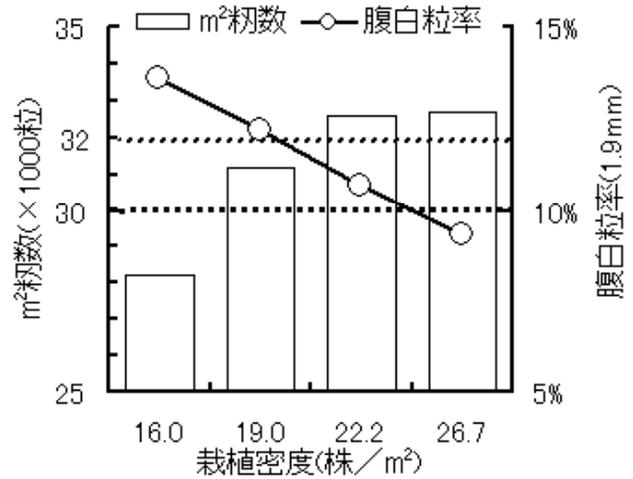
第1図 粒厚2.2mm以上比率と腹白粒率
(H6~H10旧県北分場・県北研究所, H9・10久慈市)



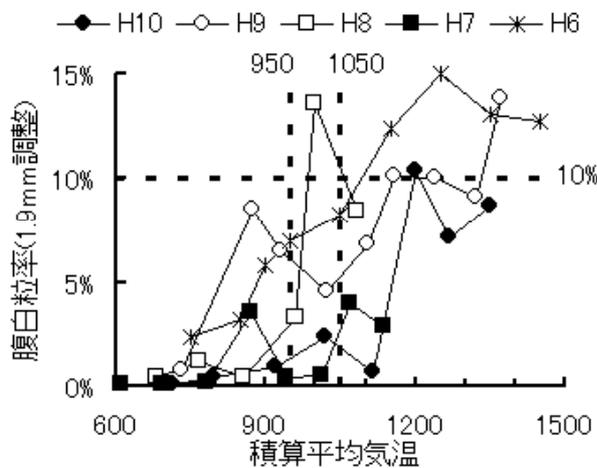
第2図 粒厚2.2mm以上比率と1.7mm千粒重
(H6~H10旧県北分場・県北研究所, H9・10久慈市)



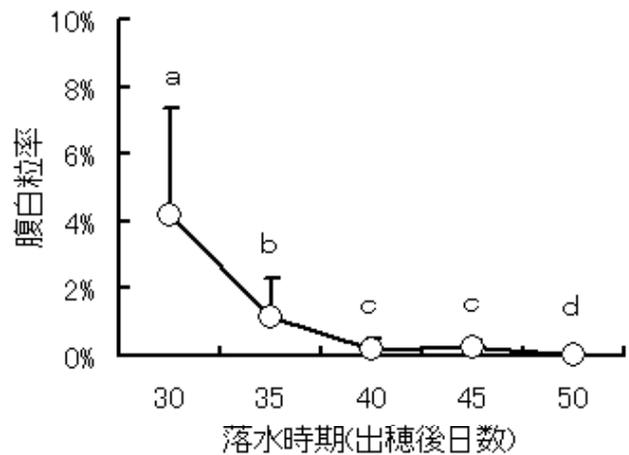
第3図 m²初数と千粒重
(H6~H10旧県北分場・県北研究所, H9・10久慈市)



第4図 栽植密度とm²初数・腹白粒率
(H10現地試験：久慈市大川目)



第5図 出穂後積算平均気温と腹白粒率
(H6~H8旧県北分場, H9・10県北研究所)



第6図 落水時期(出穂後日数)と腹白粒率
(H10県北研究所、ポット試験の結果)

注) 以上の数値はすべて水稻品種「かけはし」を用い、腹白粒は被害粒限界基準以下の軽微な粒も含む値で表している。